



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	果菜類の育苗
Author(s)	友寄, 長重
Citation	琉大農家便り(4): 4-5
Issue Date	1956-03
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19556
Rights	



国立大学法人
琉球大学
University of the Ryukyus

果菜類の育苗

材料五人前

- さんま 五尾 小麦粉 大匙 五杯
- カレー粉 大匙 一杯 油大匙 三杯
- さんまに塩、コシヨウをまぶっておきます。フライパンに油を少量熱しさんまに小麦粉をまぶして両面焼きます。やけたらフライパンに並べカレー粉をまぶして少ししゃき皿にとりまします。

c さんまの味噌漬

味噌漬にすると身がしまつてずつと美味しくなります。さんま一尾につき味噌大匙一杯を大匙半分の水でのはしてさんまにまぶします。

辛味噌の時には砂糖を少し入れますとずつと柔らかくなります。

d さんまの塩焼

さんまに薄塩をして余アミで焼きますと又香ばしく頂けます。

e さんまのグラタン

開いたさんまはやいて身をほぐしておきます。じゃがいもは普通の煮つけ位に切り熱湯から五分位ゆで湯をすてて火にかける下にかへして水分を蒸散させて粉吹しよぐつぶし塩ミルクを加えてねつておきます。之に玉葱のせん切りをフライパンで軽く油いためたものをまめて頂きます。之はそのままで結構お食事にもなりますし又パンの副食にもいいものです。

材料五人前

- さんま開き 三尾 馬鈴薯 二〇〇匁 玉葱 一個
 - ミルク 五勺 塩 小匙 一杯 胡シヨウ 少々
- (新垣博子)



那覇市の魚市場で飛ぶように売れる冷凍サンマ

豊かな収穫は健苗の生産からと言われる。不良苗直播では初期の大切な時期の収量が少ない。又直播でも後期にはかなり収量は増すが、収穫の打切り時期が早ければ、収量は非常に少い。それ故果菜類の育苗は重要な作業である。それで二三の考慮すべき問題にふれてみたいと思う。

育苗場の位置

育苗床は排水よく、日当のよい、且つ管理の便利な場所。風囲いを設けることは今日常識になつていて、風囲いの保温効果など実験的に明らかにされている。

「作物は朝日を好む」と言われており、防風林の東側が西側よりもよく育つ事も明らかにされている。又作物が昼夜の適温を異にする事も証明されている。即ちトマトは昼間二七度、夜間一七度の場合に最もよく育つ。この夜間の冷温が同化養分の体内移動を盛んにする。朝日を好むという事は結局、日射と共に気温の上昇が急激であり、作物の生育条件がよいということになる。

床土

床土が育苗にとつて大事である事は勿論であるが、床土の具備すべき条件として次のような点があげられる。

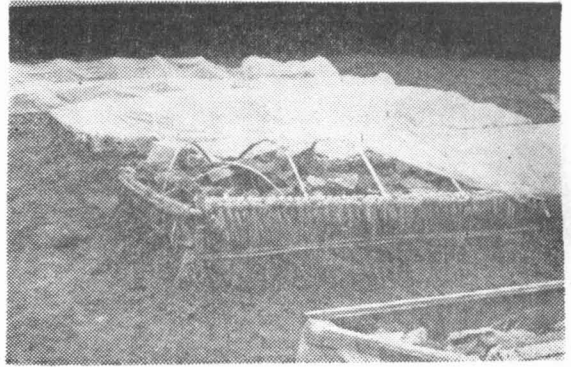
- (イ) よく肥えていて徐々に作物に利用されるような養分の含み方をしていること
 - (ロ) 頻繁な灌水管理に対しても、通風と水持ちがよいこと。
 - (ハ) 移植に際して、根傷みの少ない条件として土の軽い事。
 - (ニ) 立枯病やネマトーダなどの病虫害の発生を恐れない事
- 病虫害に対しては細心の注意を払う必要がある。用いる堆肥に注意し、土は下層土か、又は蔬菜栽培を行わない畑の土又は水田の土を用い、一旦床に用いた土は二、三年休めて後に用いる様にす。尚特に病害の出やすい茄、トマト用の培用土は、

播種床用土のみでも焼土するか、クロールピクンで消毒するとよい。

排水、保水、保温等の理学的性質をよくする為には堆肥を多用する。大体全量の半を堆肥とし、胡瓜等瓜科の植物で根が横に張る性質のものは堆肥だけで作った方が移植の際傷みが少ない。床土は堆肥と土とをそれぞれ一尺厚みに交互に積む。その際一立坪に対し大豆粕類十貫、過燐酸 石灰十貫、木灰二十貫を各層間に分施する。又これらの肥料の入手し難い現状では下肥百貫、木灰二十貫或は下肥十荷、過石六貫、米糠十貫程施用すればよい。(施肥量は堆肥の質や、土の肥よぐ度によつて違ふが、一立坪当たり窒素一貫、燐酸二貫、加里一、五貫の成分量を標準としている)積込後一二月毎に切り返しを、年内に三、四回行う。クロールピクンの使用法は床土使用一カ月前、最後の切り返しを行う時、厚さ五、六寸に床土を積み、一尺角位に一カ所、棒で浅い穴をあけ、ここに二分の一或は三分の一寸位のクロールピクンを落とし、足でふんで穴をふさぐ。更にこの上に又床土を五、六寸につみ、同じ操作をくり返す。使用前に更によく切りまぜて、臭気がぬけたら用いる。クロールピクンは人体に有毒であるから、風の無い日に落ちついて仕事する様に注意する。出来れば床土をビニールか濡むしるで覆つて二週間以上たつてからよく攪拌しガスを去り、使用に当つてはふるいをかけるようにする。

苗床初期の管理

播種の温度は高い方がよい。三千から三十五度(迄は大丈夫である。それ故温床育苗は有利である。各農家温床、冷床或いはビニールハウスの一つは持つ事が望ましい。此のような施設があると高温多湿の下で発芽させ、南瓜、胡瓜では三、四日、トマト四、五日、茄五、六日で発芽が揃う。



ビニール温床。育苗に必要な温床はビニールを使つて容易に作れます。

(中央農業研究指導所)

種子に病菌のついている恐れのある場合にはホルマリン百倍液又はウスアルン千倍液に三〇―六〇分浸漬し、十分水洗いをして浸種して播種する。播種後消毒をし日照を遮り、発芽後は敷藁をとり通風、日照を良くし徒長を防ぐ。発芽後はいわゆる育苗適温にうつす。大体昼夜平均して、茄二四―七度C、トマト二二―四度C、かぼちや二二―一度C、きつり二二―四度C位としてよい。発芽後は夜間の温度は低い方がよいが、発芽抽後密生部を十分間引き、又瓜類では子葉の出るか出ない内に第一回の移植を行う。

育苗各論

各果菜を適温に栽培する為には播種期は大体一定している。しかし温床等を用いて育苗し、促成、半促成、抑制栽培する時は早めに或は遅くすることが出来る。次に各果菜の播種期について述べる。

トマト 八月の上旬から一月の下旬迄に二寸の条播にし、本

葉二、三枚の時密生部をとつて仮植し、本葉五、六枚の定に定植する。根は丈夫で活着し易く定植の際の根傷みにもよくたえるから、仮植の回数は少ない方がよい。

ナス トマトと同様ナス科植物に属するがトマトよりも耐暑性が強い。播種期は二月と七月―九月上旬で最適は八月下旬である。育苗法はトマトに準ずる。

カボチャ 二月上旬から三月下旬迄に播くが、適期は二月下旬である。直播をする場合には一カ所に五、六粒播き、本葉三、四枚迄に一株とするが、育苗する場合には育苗日数に比例して移植の回数を多くする。即ち根は根繁生を割合に粗大で、恢復力に乏しいから、育苗日数を五、六十日とすると、第一回移植は子葉展開後、その後二、三回を移植を行い、定植前十日位に根廻しを行つて植傷みの軽減につとめる。大体本葉三、四枚の時に定植する。播種量は沖繩種反当一台、日本種二合必要で二寸×一寸の点播にする。日本種は播種床一坪として最終移植は八―十坪を要する。

樹木はどの位の成長をしているでしょうか

―特にオキナワシイについて―

一、始めに

私達の生活は殆ど木材と縁が深く人間生活の三要素である衣食住の殆どが木材と結びついております。所が私達は樹木の有難さをさげすみ痛切には感じないようであります。あたかも空気の有難さを忘れてるように。空気は地球の周りに充滿し、使つても使つても(吸つても吸つても)無くなりませんが、樹木はそういうわけにはいきません。

今一〇〇万円の財産をもつている人が年利六分で銀行に預金すると毎年六万円、月に五千円の利子を生じます。若し毎月五千円で生活出来るならばこの人は資本を減らすことなく何時ま

キユワリ 二月上旬から三月下旬迄と八月中旬から九月下旬迄播種出来るが適期は三月上旬と九月上旬である。育苗法は大体カボチャに準ずるが育苗期間を四、五十日とし、反当二合半必要とする。直播の場合には三合位要する。瓜類は種子を水平に置いた方が種皮がよくはげ、又相当子葉が大きいので、一定の方向に向けて並べると子葉が重ならず、発育が一様になる。第一回移植は本葉展開前に行つた方がよい。

スイカ 一月上旬から三月下旬迄に播種する。二月上旬が最適期である。大苗の定植は極めて困難であるので、育苗期間は一月月前後とし、鉢鉢に子葉が開くか開かない内に移植し、定植に際して鉢土を崩し、根を損傷する事を極力さける。日本の集約栽培地帯では鬱病を防ぐために夕顔に接木する事が普及している。接木の方法は次の機会に説明する事にする。幼少時は比較的弱く、又高温湿潤のものであるから、直播の場合でも小さな木箱或は紙覆等で瓜守を防ぐと共に若干の保温を行う。

(友 寄 長 重)

でも生活していけるわけです。(但し貨幣価値の変動とかその他難しいことは考えず)

所がこの人が、この財産だけで生活することとし、毎月の生活費に三万円を要すると一〇〇万円の財産も四年以内には無くなつてしまつてしまうことでしょう。

樹木の場合も、ちょうど同じことが考えられます。例えば一〇〇万石の材積をもつ森林で毎年の成長量(これについては後で徐々にのべることに致します)が六万石あつた場合、私達は毎年六万石の伐採利用を續ければその森林の材積は、あたかも前例で一〇〇万円の資本が減らないと同様何時までも減らない